

第2回 新宮市文化複合施設基本設計等検討委員会 会議概要

日 時：平成27年7月13日（月） 午後1時30分～午後5時00分

場 所：新宮市人権教育センター（春日隣保館）会議室

【出席委員】

堀内委員、関委員、川口委員、船上委員、山本委員、高委員、榎本委員、丹羽委員、勢古委員、上路委員、片山委員（順不同）

【欠席委員】

向井委員

【事務局】

文化振興課：畑尻課長、須崎課長補佐、前地係長、南係長、小林主事、篠原主事

図書館：道前係長

＜会議次第1. 前回打合せ内容の確認＞

設計者より、資料1に基づき前回会議の打合せ内容を確認

質疑・意見特になし。

＜会議次第2. 分棟案について＞

設計者より、資料2-1、2-2に基づき、他市町村の複合施設の事例、及び分棟案のメリット・デメリットについて説明

【委員】

本委員会は、分棟の是非を確認するものか。それとも、分棟案の中で修正箇所等を確認するものか。

【事務局】

現在の案は、あくまで設計者より提示されたプロポーザル案である。委員には分棟・単棟に拘らず議論し、提言をいただきたい。

【委員長】

プロポーザルは、設計案ではなく設計者を決めるものだが、基本設計等検討委員会ではプロポーザル案をたたき台に議論を行い、方向性を定めていきたい。

【委員】

棟同士のつながりが希薄であることも、分棟形式のデメリットではないか。

【設計者】

単棟で積層した複合化を想定した場合、1・2階にある機能と3・4階にある機能の道からの見え方や機能同士の関わり方が必ずしも同じとはいえない。低層で広場等の共用空間を介して配置することでそれぞれの活動が直に見え、一体感が高まるといった事例もあり、分棟案のほうが共有感を得やすいと考える。

【委員】

具体的に共有感とは何を指すのか提示して欲しい。

【設計者】

互いの活動の様子が見えるという「視覚的一体感」を指す。道を挟んでいても視覚的つながりを持つことは可能である。

【委員】

図書館・熊野学棟と熊野ひろばとのつながりがみえにくい。

【委員】

市道が使えることを踏まえて再考する必要がある。

【委員】

熊野ひろばを中心にしてまとまっているように感じられる。

【委員】

イニシャルコストの削減につながるという点においては分棟形式を評価すべきである。図書館棟と熊野学棟の2階部分の木造は決定事項か。

【設計者】

熊野を象徴するものとして、木はイメージ的にも捉えやすく、切り離せない関係にあると考えられる。仕上材のみでなく、構造体にも積極的に取り入れ木質化を図りたい。

【委員】

類似施設として挙げた例と異なる点は、敷地内に市道が通っており、車も通るという点である。また、奥には民家もある。立体駐車場の位置・車両動線は周辺道路の交通状況・使い方を考慮し再考すべきである。新宮城と速玉大社をつなぐ道も非常に重要であり、その道の先に立体駐車場が建っているのは問題ではないか。

【委員】

分棟について異論はないが、雨が多い地域性があり、雨天時も使える屋根付の広場が望ましい。また、棟間の移動は雨に濡れない配慮をして欲しい。

【設計者】

単棟か分棟かの議論が重要と思えない。ひとつの敷地に文化複合という理念として3つの機能が集まっていることに意義がある。道との関係性・正面性・立体駐車場等のことを踏まえ、次回案を提示する。

<会議次第第3. 施設の全体構成配置案について>

設計者より、資料3に基づき熊野学センターについて説明

【委員】

収蔵庫は耐火構造とすること。

【委員】

基本計画では、郷土資料・古文書は熊野学センターにて収蔵する計画となっている。

【委員】

事務室は総合事務室という形で図書館棟に集中させているが、支障はないか。

【委員】

「熊野学」が何か捉えにくく、アピール力が弱い。熊野学に関するものは一ヶ所にまとめることで主張を高めるべきである。

【委員】

熊野学に詳しい司書を早急に育てる必要がある。

【委員】

熊野学は多岐に渡る分野から成る。熊野学棟で何を発信していくのか焦点を絞るべきである。

【委員】

実物や実際の資料に触れて研究を行える施設となることは大変な強みである。

【委員】

基本計画では熊野信仰を中心としてPRしていくことを想定していた。

【委員】

来訪すれば誰かに会えるといった市民にとっての交流の場所とすべきである。

【委員】

研究的側面もあるが、市民が通いたいと思う場所を構築するべきである。

【委員】

木質化に関して、熊野本宮館・熊野古道センターとの差異化を図ってほしい。

【設計者】

マネジメントをする人が計画段階から参入することが望ましい。どうしたら「市民が自慢できる施設」になるかという視点が必要である。

【委員長】

次回からは今回の議論を踏まえ図面化し、議論を深める。

【設計者】

一度来て終わりではなく、持続的に人が集まるような施設にすることが重要である。

<会議次第 4. 市民ワークショップについて>

設計者より、資料 4-1、4-2 に基づき、第 1 回及び第 2 回ワークショップについて説明

【設計者】

2 回目以降は、3 つの施設の役割を整理していく予定である。本日の内容を踏まえて第 2 回（案）の修正を行う。

【委員】

第 1 回は、文化的意識の高い人が多かった印象を受けた。

【設計者】

熊野学については別の議論があった方がいいように感じている。

ワークショップの特徴として、市民にしか見えてない情報があるため、その部分を確認して調整したいと考えている。

【事務局】

年内に基本設計をまとめる。基本設計終わり頃から管理運営計画の委員会の立ちあげ、より市民の意見を取り入れやすい体制を作っていく予定である。

設計者より、ワークショップの他事例をプロジェクターにより紹介

＜会議次第 5. その他＞

【事務局】

市民会館の解体に伴うホール機能等の使用不可期間は平成 28 年度～30 年度までのおよそ 3 年間となる。

【委員】

3 年間も使用出来ないのは、あまりに長すぎる。

【事務局】

学校の体育館などの利用をお願いしたいと考えている。市民への周知を徹底出来るよう考えたい。

今後の日程について

第 3 回委員会 7 月 30 日（木）

第 4 回委員会 8 月 21 日（金）

第 5 回委員会 9 月 7 日（月）

＜閉会＞